

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 2	教育研究組織
------	--------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
201	付置研究所・センター等の研究組織は、理念・目的に照らして適切なものですか。	①研究組織の編制原理は明確に定められていますか。	D	B
		②建学の精神を踏まえた研究組織(研究所・センター)の編制を行っていますか。	B	
		③学術の進展や社会の要請に適合した研究組織(研究所・センター)の編制を行っていますか。	A	
202	教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っていますか。	④研究組織(研究所・センター)の適切性について、定期的に検証を行っていますか。【※どのように】	C	C

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

【201】

- ① 研究組織単独の編制原理は定めていない。本学の研究組織が学部教育理念を踏まえて設置していることに鑑み、教育研究組織の編制原理として全学的に検討を始める予定である。
- ② 建学の精神に基づいた教育理念により設置された人文科学・社会科学・自然科学等8学部、9研究科に対応した形で、4つの付置研究所として、「仏教文化研究所」「社会科学研究所」「科学技術共同研究センター」「国際社会文化研究所」を設置している。
- ③ 本学の理念・目的に適合した普遍的な研究組織として、「人間・科学・宗教総合研究センター」（以下、「人間総研」）を設置している。人間総研は、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に研究プロジェクトを申請し、採択を受けたものを中心に8研究センターを配置している。外部の採否という評価を経て設置されていることから、学術の進展や社会の要請に適合した研究組織である。

【202】

- ④ 2010 年度に研究企画委員会・研究担当理事者連絡会議合同会議において5長アクションプランの検討課題に基づき、付置研究所のあり方についての検証を行った。また、2011 年度より導入された自己点検・評価制度において、付置研究所ごとには実施していないが、毎年度研究機関全体を検証している。

〔改善すべき点の確認〕前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

【201】喫緊の課題として、国際文化学部深草移転後の「国際社会文化研究所」のあり方や、5長アクションプランにおける「仏教を機軸とした国際的な研究拠点の形成」に関わる「仏教文化研究所」のあり方がある。これらの検討を推進するとともに、教育研究組織の適切性についても検証する必要がある。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
特記事項なし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。
・国際文化学部の深草学舎移転後の「国際社会文化研究所」のあり方については検討途上であることから、全学研究会議内に設置している研究企画委員会において、2014（平成 26）年度前期を目処に結論を出すべく引き続き検討を行う。 ・「仏教を機軸とした国際的な研究拠点の形成」に関わる「仏教文化研究所」のあり方については、全学研究高度化推進会議の下に設置した「仏教を機軸とした国際的な研究拠点の形成へ向けての検討委員会（2013 年 4 月 25 日設置）」において、2013（平成 25）年度内に方向性を確定させるべく鋭意検討を進めた。その結果を 2013（平成 25）年度第 6 回全学研究高度化推進会議（2014 年 3 月 5 日開催）へ答申し、そこでの審議を経て第 54 回学長会（2014 年 3 月 5 日開催）において学長へ上申し、現在の「仏教文化研究所」を包括する形で新たに「世界仏教文化研究センター（仮称）」設置の方向性が諒とされた。今後、2015（平成 27）年度に同センター設置へ向けて、2014（平成 26）年度前期中に提案を行う。 ・「国際社会文化研究所」及び「仏教文化研究所」のあり方を検討していく中で、「人文科学系研究所（仮称）」の検討も併せて行う。 ・教育研究組織の適切性の検証の方途については、全学研究会議内に設置している研究企画委員会で 2014（平成 26）年度前期を目処に検討を行う。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
201	「強みのある研究」「仏教を機軸とした特色ある研究」の推進について（上申）

II. 評価結果

総評
建学の精神や学術の進展、社会の要請に適合した研究組織を編成していると判断できるが、編制原理と検証体制の構築が急がれる。昨年、自ら改善すべき点とその改善方策に記載された「研究組織における定期的な検証を行い、それをもとに全学研究会議にて改善を実行する。なお、定期的に検証する仕組みについては、2013 年度以降、研究企画委員会を中心として構築し、大学全体の視点による本学研究組織の定期的検証の実施を目指す。」となっていたが、現状説明では、「付置研究所のあり方についての検証を行った。自己点検・評価制度において、付置研究所ごとには実施していないが、毎年度研究機関全体を検証している。」にとどまっている。8 研究センターと 4 付置研究所それぞれの検証体制について具体的に記述していただきたい。
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
5 長アクションプランの検討課題に基づく、付置研究所のあり方についての検証を行ったことは評価できる。

改善すべき点 《箇条書き》＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
自ら改善すべき点とその改善方策に記載された「研究組織における定期的な検証を行い、それをもとに全学研究会議にて改善を実行する。なお、定期的に検証する仕組みについては、2013 年度以降、研究企画委員会を中心として構築し、大学全体の視点による本学研究組織の定期的検証の実施を目指す。」となっていたが、現状説明では、「付置研究所のあり方についての検証を行った。自己点検・評価制度において、付置研究所ごとには実施していないが、毎年度研究機関全体を検証している。」にとどまっている。8 研究センターと 4 付置研究所それぞれの検証体制について具体的に記述していただきたい。【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 2	教育研究組織
------	--------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
201	教育組織(学部・学科・専攻等)は、建学の精神や教育理念・目的を実現できる組織として編制されていますか。	①教育理念・目的を実現できる教育組織(学部・学科・専攻等)を編制していますか。	A	A
		②学術の進展や社会の要請に適合した教育組織(学部・学科・専攻等)を編制していますか。	A	
202	教育組織(学部・学科・専攻等)の適切性について定期的に検証を行っていますか。	③教育組織(学部・学科・専攻等)の適切性を検証する体制を整備していますか。【※どのように】	A	B
		④教育組織(学部・学科・専攻等)の適切性について検証をしましたか。【※どのように】	B	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。
①②設置基準に基づき、学則第1条において大学の理念・目的を定め、その理念目的を達成し学術の進展や社会の要請に応えるために、8学部（文学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、社会学部、国際文化学部、政策学部、）、9研究科（文学研究科、経済学研究科、経営学研究科、法学研究科、理工学研究科、社会学研究科、国際文化学研究科、実践真宗学研究科、政策学研究科）、1専門職大学院（法務研究科）、留学生別科を設置し、短期大学部を併設している。 また、第5次長期計画を象徴し、その原動力となる重点課題として、2015年4月に「国際文化学部（国際学部へ改組）の深草学舎への移転」、「瀬田学舎における農学部を設置」を実現するため、改革を推進している。 ③④2011 年度より自己点検・評価制度を構築し、教育組織（学部・学科・専攻等）の適切性について検証を行っている。また、全学的な課題（部署横断的な課題）については、部局長会のもとに検証・改善が進められている。
〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。 ・ 検証方法について、速やかに検討されることが望まれる。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
・ 2011 年度に構築した自己点検・評価制度により、教育組織の適切性について定期的に検証を行うことが可能となった。 ・ 2015 年 4 月に「国際文化学部（国際学部へ改組）の深草学舎への移転」、「瀬田学舎における農学部を設置」を実現するため、改革を推進している。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

・ 検証方法の構築

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称

II. 評価結果

総評

教育組織（学部・学科・専攻等）が、建学の精神や教育理念・目的を実現できる組織として編制されているかという点については、各学部等の理念・目的の適切性等を検証する各組織の自己点検評価と、大学全体の視点の自己点検評価の両面から見る必要がある。まずは、各学部等の理念・目的の設定状況を確認し、学部名称変更や新学部設置が生じるときには、評議会等の審議のプロセスで「建学の精神や教育理念・目的を実現できる組織」という観点が適切に含まれていたか、議事録や資料を添付する必要がある。そして、その学部等の理念・目的の内容にも「建学の精神や教育理念・目的を実現できる組織」という観点が含まれているのか確認する必要がある。また、そのための部局長会や評議会の役割が、そのまま体制となるので、今後、こういった観点から記述していただきたい。

伸長すべき点(長所) 《箇条書き》

改善すべき点 《箇条書き》 * 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

・ 現状説明では、点検項目の【※どのように】に対する説明を明確にお願いしたい。【留意点】

※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要